

## 学位論文審査基準

### 【建築】

工学研究科 建築学専攻

理工学研究科 建築学専攻

項目	課程/論文	基準
主論文を構成する論文の条件	課程博士	2 編以上。 ただし、 <b>First Author</b> の論文であることを原則とし、内 1 編は日本建築学会論文集に掲載の論文(もしくは、これと同等以上の学術的権威の高い英文論文)を含むものとする。レフェリー付き国際会議等のプロシーディングスは 1 編と数える。
	論文博士	3 編以上。 ただし、 <b>First Author</b> の論文であることを原則とし、内 1 編は日本建築学会論文集に掲載の論文(もしくは、これと同等以上の学術的権威の高い英文論文)を含むものとする。レフェリー付き国際会議等のプロシーディングスは 1 編と数える。
博士学位にふさわしい学力確認の基準(学位論文の内容に係る審査条件)	課程博士	申請論文の審査及び質疑を通して次のことを確認する。 (1)当該専門領域に対する十分な知識。 (2)申請論文の位置付け・周辺分野に対する十分な理解。 (3)申請論文に長所・短所等の特徴に対する十分な理解。
	論文博士	申請論文の審査及び質疑を通して次のことを確認する。 (1)当該専門領域に対する十分な知識。 (2)申請論文の位置付け・周辺分野に対する十分な理解。 (3)申請論文に長所・短所等の特徴に対する十分な理解。 ・英文要旨に基づき申請者が十分な学力を有していることを確認する。
国際化に対応する研究者としての能力確認の基準	課程博士	申請論文の審査及び質疑を通して次のことを確認する。 (1)当該分野の国際的研究レベルから見て申請論文が十分な独創性・新規性を持つ。 (2)申請者が国際会議の発表に耐えうる高いプレゼンテーション能力を有する。
	論文博士	申請論文の審査及び質疑を通して次のことを確認する。 (1)当該分野の国際的研究レベルから見て申請論文が十分な独創性・新規性を持つ。 (2)申請者が国際会議の発表に耐えうる高いプレゼンテーション能力を有する。 ・英文要旨に基づき申請者が国際化に対応する研究者としての資質を有していることを確認する。
在学期間短縮に係る基準	課程博士	(1)3 編以上。 ただし、 <b>First Author</b> の論文であることを原則とし、内 1 編は日本建築学会論文集に掲載の論文(もしくは、これと同等以上の学術的権威の高い英文論文)を含むものとする。 (2)学内・学外での研究活動実績で学識が担保されていると考えられること。

## 学位論文審査基準

### 【建築】

理工学研究科 国際火災科学専攻

項目	課程/論文	基準
主論文を構成する論文の条件	課程博士	2 編以上。 First Author の論文であることを原則とし、内 1 編はプロシーディングスでも可とする。
	論文博士	3 編以上。 First Author の論文であることを原則とし、内 1 編はプロシーディングスでも可とする。
博士学位にふさわしい学力確認の基準(学位論文の内容に係る審査条件)	課程博士	申請論文の審査及び質疑を通して次のことを確認する。 (1)当該専門領域に対する十分な知識。 (2)申請論文の位置付け・周辺分野に対する十分な理解。 (3)申請論文に長所・短所等の特徴に対する十分な理解。
	論文博士	申請論文の審査及び質疑を通して次のことを確認する。 (1)当該専門領域に対する十分な知識。 (2)申請論文の位置付け・周辺分野に対する十分な理解。 (3)申請論文に長所・短所等の特徴に対する十分な理解。 ・英文要旨に基づき申請者が十分な学力を有していることを確認する。
国際化に対応する研究者としての能力確認の基準	課程博士	申請論文の審査及び質疑を通して次のことを確認する。 (1)当該分野の国際的研究レベルから見て申請論文が十分な獨創性・新規性を持つ。 (2)申請者が国際会議の発表に耐えうる高いプレゼンテーション能力を有する。
	論文博士	申請論文の審査及び質疑を通して次のことを確認する。 (1)当該分野の国際的研究レベルから見て申請論文が十分な獨創性・新規性を持つ。 (2)申請者が国際会議の発表に耐えうる高いプレゼンテーション能力を有する。 ・英文要旨に基づき申請者が国際化に対応する研究者としての資質を有していることを確認する。
在学期間短縮に係る基準	課程博士	(1)3 編以上。 First Author の論文であることを原則とし、内 1 編はプロシーディングスでも可とする。 (2)学内・学外での研究活動実績で学識が担保されていると考えられること。